

Ⅱ 国語科の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

- ・「大問・領域」には「読むこと」「書くこと」「言語事項」「話すこと・聞くこと」の3領域1事項を、「設問のねらい」には小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の5観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の分析と指導のポイント」について

- ・調査結果の分析については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続して見られる課題」を示し、指導のポイントについては、今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点を示した。また、文末の「○ページ参照」は、次の3「領域別調査結果の考察と指導のポイント」の内容との関連箇所を示している。

3 「領域別調査結果の考察と指導のポイント」について

- ・大問ごとに設問・正答・結果・誤答例等について左ページに、その考察（概要・指導のポイント）について右ページに記した。

（※誤答例は、抽出児童の主な誤答について頻度の高いもの）

1 設問のねらいと評価

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 国語への関心・意欲・態度 |
| 2 | 話す・聞く能力 |
| 3 | 書く能力 |
| 4 | 読む能力 |
| 5 | 言語についての知識・理解・技能 |

大問・領域	小問	設問のねらい	観点別評価				
			1	2	3	4	5
1 読むこと	問一	段落相互の関係を考え、文章を正確に読み取ることができる。				○	
	問二	文章の叙述に即して、内容を正確に読み取ることができる。				○	
	問三	文章の叙述に即して、内容を正確に読み取ることができる。				○	
書くこと	問四	筆者の主張を正確に読み取った上で、自らの意見を述べることができる。	○				
					○		
2 言語事項	問一	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を読むことができる。					○
							○
		当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。					○
							○
	問二	文の構造を理解し、修飾語と被修飾語の関係を正しく理解することができる。					○
							○
	問三	用言を言い切りの形に直すことができる。					○
							○
	問四	漢字の画数を正しく理解することができる。					○
							○
3 話すこと・聞くこと		資料を正確に読み取り、それを基にして他者に適切に伝える原稿を書くことができる。	○				
				○			

2 調査結果の分析と指導のポイント

(1) 調査結果の分析

全 体	◇文章の叙述に即して、内容を正しく読み取ることができている。 ◇配当漢字の読み書き、基本的な語彙の使い方は身に付いている。 ◆自分の考えや伝えるべき内容を適切に述べることに課題がある。
領 域 別	<読むこと> ◇文章の叙述に即して、内容を正確に読み取ることができている。 <書くこと> ◇自分の考えをもつことはできている。(三つ選択肢の中から一つ選ぶ) [言語事項] ◆文の構造を理解し、修飾語と被修飾語の関係を正しく把握することに課題がある。 <話すこと・聞くこと> ◆条件に合わせて、発表原稿を適切に書くことに課題がある。
継 続 し て 見 ら れ る 課 題	◆言葉のきまり(昨年度は主述の呼応、今年度は修飾・被修飾の関係)に関する知識が定着していないこと。(報告書p. 9「結果の概要問三」「指導のポイント〔修飾語について〕」参照) ◆自分の考えに即した事実を根拠として、表現すること。 (報告書p. 7「結果の概要問四」「指導のポイント〔書くことについて〕」参照)

(2) 指導のポイント

○問いに正対して答えることが、引き続きの課題である。ワークシートの指示や授業中の発問に対して、何を聞かれているのかを正しく読み取ったり聞き取ったりすることを指導する必要がある。日々の学習の中でも指導することはできるが、「正しく読み取ったり聞き取ったりする」とはどういうことかを、取り出して指導するとよい。 ○言語事項の内容を知識として定着させるには、小単元で扱うだけでは不十分であり、機をとらえて学習することが必要である。そこで、授業の中でも、三領域の言語活動と関連させて、習熟を図り、適切に表現したり正確に理解したりすることにつなげることが大切である。また、さいたま市で作成している「基礎学力定着プログラム」のワークシート集を効果的に活用するとよい。必要に応じて、下学年のワークシートを復習用に活用したり、知識の定着のために同じワークシートを期間をあけて再度取り組ませたりするなど、様々な活用方法が考えられる。
--

3 領域別調査結果の考察と指導のポイント

領域別正答率(%)

H19

H20

H21

(1) 読むこと、書くこと

全国学力・学習状況調査	読むこと	71.7	49.7	73.5
	書くこと	87.1	57.9	87.8
さいたま市学習状況調査	読むこと	71	68	84.5
	書くこと	66	78	86.7

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正率	市の正率	市の無答率	設定通過率
1 読 む こ と	問一	この文章中の□にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものを、次のア～ウの中から一つ選び、記号で答えましょう。 ア そして イ しかし ウ まず	ア そして	ウ まず		81.2	0.6	65
	問二	「江戸しぐさ」は、どのような生活をするための知恵として発たつたのですか。もっともふさわしいものを次のア～ウの中から一つ選び、記号で答えましょう。 ア 人口の多い都市で、自分のことだけ考えて生活するための知恵 イ 人口の多い都市で、トラブルを起こさず生活するための知恵 ウ 人口の多い都市で、健康で安全に生活するための知恵	イ 人口の多い都市で、トラブルを起こさず生活するための知恵	ウ 人口の多い都市で、健康で安全に生活するための知恵		88.0	0.7	75
	問三	この文章の中に、「傘かしげ」の他に書かれている代表的な「江戸しぐさ」が二つあります。その二つを書きましょう。	こぶし腰浮かせ (腰浮かせ) 肩引き	江戸しぐさ 傘かしげ		83.9 85.7	4.1	80 85
書 く こ と	問四	あなたができると思う現代版の「江戸しぐさ」を次のア～ウの中から一つだけ選び記号を書きましょう。また、それを選んだ理由を解答用紙のきまった場所に、四十字以上で書きましょう ア 開けたドアを後から来る人のために押さえておくこと イ エレベーターの乗り降りには、ボタンを押してドアが閉まらないようにして、他の人が先に乗り降りするのを待つこと ウ 重い荷物を持っている人や、車椅子の人などの手助けすること	(例) 選んだ記号：イ 理由 この間、わたしがエレベーターに乗ろうとした時に、女の人に「どうぞ。」と言ったら、笑顔でお礼を言われました。その時、とても気持ちがよかったからです。		記 号			
						97.3	1.5	95
					理 由			
						75.3	3.7	60

(単位：%)

結果の概要**【問一】について（読むこと）**

説明文の中で、文と文のつながりを考え、文章を正確に読み取ることができるかを問う問題であった。正答率は81.2%と満足できる結果であった。

しかし、誤答は、「まず」という順序を表す言葉が大半をしめた。前後の文の関係はもちろん、文章全体をとらえて読む視点が弱かったためと思われる。

【問二】について（読むこと）

ここでは、文章全体の中心である「江戸しぐさ」の意味を要約してある文を選ぶ問題であった。正答率は88.0%と満足できる結果であった。

誤答は、ウ「健康で安全な生活をするための知恵」が大半を占めた。内容を吟味せずに「健康」「安全」という耳慣れた言葉を安易に選んだのではないかと思われる。

【問三】について（読むこと）

文章の中から問われている内容の言葉を書き抜く問題であった。目的に合った言葉を引用する力を求められている。正答率は83.9%、85.7%と満足できる結果であった。

誤答の多くは、問題文の中に書かれている「江戸しぐさ」「傘かしげ」の二つをそのまま写していた。

【問四】について（書くこと）

一つ目は、選択肢の中から自分の考えを問われる問題であった。どれを選択しても正解だったため、正答率が高くなったと考えられる。

二つ目は、選択した自分の考えの根拠（理由）を筋道立てて、読み手に分かりやすく書くことの力を測る問題であった。採点基準が広がったため、75.3%と正答率が高くなったと考えられる。正答の中には、自分の経験（直接・間接）を理由として明確に書かれているものがある一方、理由らしきものが書かれていればよい、というものが含まれているため、実際の正答率はもっと下がるものとも思われる。今後、採点基準を絞り込んだ調査をすることも考えられる。

また、誤答は、一行程度で書くことをやめてしまう傾向が見られた。

指導のポイント**【読むことについて】**

読む力を付けるには、授業の中で丁寧に読み取りの方法を指導することが重要である。目的に応じてキーワードやキーセンテンスを見付けたり、要約したり、引用したりといった活動を繰り返すことによって、読む力の向上を図りたい。それを補完し、支えるものとして、読書や資料読みが有効である。教科書のための学習にならずに、テーマ別、ジャンル別、作者・筆者別、シリーズもの等、本を活用して、多読や比べ読み等の学習を効果的に設定するとよい。

日ごろの読書においては、できるだけ図書館に足を運び、本に触れさせたい。選書を児童に任せただけでなく、発達段階に応じて、テーマや作者を決めて読書をする楽しさ等も指導したい。

【書くことについて】

日常的に「国語力向上プログラム」を意識して、様々な場面で書く活動を取り入れるようにしたい。自分の考えや聞いたことをメモする、考えをまとめるために書く等、状況に応じた書き方を指導する。

書くことの単元を指導する際には、教師自身が、何についてどのように書くのかということを意識する必要がある。そのためには、教師自身が、相手意識や目的意識を明確にし、様式、字数や書く時間等を決定し、付けたい力を明確にすることが求められる。これにより、児童にも学ぶべきことを意識させることができる。さらに、書いたものを評価する際には、教師が、評価基準を明確にもって評価に当たる必要がある。そして、基準を満たしていない児童には、一人ひとりに応じた指導を徹底していく。

(2) 言語事項

領域別正答率(%)	H19	H20	H21
全国学力・学習状況調査	88.4	68.8	67.0
さいたま市学習状況調査	74	75	80.1

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な 誤答例	自校の 正答率	市の 正答率	市の 無答率	設定 通過率
二 言語 事項	問一	(1) 池に氷がはる。 (漢字の読み)	こおり	こうり		90.4	1.0	70
		(2) お礼を言う。 (漢字の読み)	れい	さつ		96.1	1.1	95
		(3) おむすびをオとした。 (漢字の書き)	落	さんずいを大 きく書く		82.5	3.4	75
		(4) 仲のよいトモダチ。 (漢字の読み)	友達	「達」のつく りを「幸」と 書く		83.5	1.3	65
		(5) 読書カンソウ文を書く。 (漢字の読み)	感想	「心」が抜け ている		85.5	2.9	70
	問二	(1) □を修飾する言葉 わたしは 駅前の 花屋で ア イ 花束を 買った。 (修飾語) ウ エ	イ 駅前の	ウ 花束を		65.5	1.7	80
		(2) □を修飾する言葉 わたしの 母は、ピアノの ア イ 先生だ。 (修飾語) ウ	ア わたしの	イ ピアノの ウ 先生だ		40.7	1.7	70
	問三	(1) 四月だというのに、昨日はとて も寒かった。(辞典にのっている言 葉の形)	寒い	「寒」(送り仮 名なし)		81.7	1.9	55
		(2) スピーチで自分の意見を伝えよ う。(辞典にのっている言葉の形)	伝える	伝わる		89.9	1.8	65
	問四	(1) 「区」の画数	四画	五画		70.8	1.2	70
		(2) 「海」の画数	九画	十画		95.1	1.1	75

(単位：%)

結果の概要

【問一】について

(1)(2)の漢字の読みは、正答率が90%を超え、また、無答率も1%前後であり、日常生活においても適切に使うことができていると考えられる。(1)は、「こうり」と表記してしまう誤答が多かった。(2)は「礼」を「札(ふだ)」と読み違える誤答例があった。(3)～(5)の漢字の書き取りにおいても、他教科や日常生活の中でも触れる機会の多い漢字であったためか、正答率が80%を超える結果となった。(3)では、「落」の「くさかんむり」ではなく「さんずい」を大きく書いている誤答が多く見られた。(4)では、「友達」のつくりが「幸」になってしまう誤答例が多かった。(5)の「感想」は、日ごろよく目や耳にする言葉であるにもかかわらず、「心」を抜かして書いてしまう誤答が多かった。

【問二】について

第3学年の学習内容であるが、正答率が(1)65.5%、(2)40.7%と、他と比べても極端に低かった。修飾語と被修飾語の関係を正しく理解していないことが分かる。例題で、修飾語は被修飾語より前に出てくることを示したが、修飾語の直後の記号を選んでいく誤答が多かった。(2)では述語と勘違いし、ウを選んだ誤答が多く見られた。

【問三】について

用言を言い切りの形に直すことは、おおむね理解できているようである。知っている語彙(寒い、伝える)の出題が、正答率を上げたとも考えられる。ただし、動詞を「～る」の形に直すことは慣れているようだが、形容詞を「～い」に直すことに課題がある。また、(1)では、漢字の間違ひが多く、(2)は、「伝わる」と受け身の形に直してしまう誤答例が見られた。

【問四】について

(1)では、四画目を縦と横で分けて書いている児童が「五画」とする間違いが目立った。(2)は、おおむねよくできていた。低学年で習う漢字は比較的正しく覚え、書いているようである。

指導のポイント

【漢字・熟語の指導について】

新出漢字の学習では、興味をもたせる工夫をする必要がある。書き順や読み方はもちろんであるが、意味やその由来、へんかつくりなどを「体に関する漢字集め」「草かんむりのつく漢字集め」等、ゲーム感覚で学ぶ方法も考えられる。また、書写の学習を生かして、文字は正しい書き順で書くことと形が整いやすいことを理解させるとよい。左から右へ、上から下へなど、書き順の原則を学ぶ活動を取り入れることも必要である。

【修飾語について】

修飾語については、第3学年で学習する。その際、身の回りの様子から修飾語を見付け、単文作りを行うなど、楽しみながら理解を深めていく学習を工夫する必要がある。また、日々の積み重ねも大切で、「読むこと」や「書くこと」の学習において、文を取り出して確認するなど、意識して継続的に修飾語の指導をしたい。基礎学力定着プログラム等を活用し、1、2年生で習得する主述の関係と併せて、継続して取り組むことが必要である。

また、児童にとって「修飾語」という言葉は耳慣れていないので、教師も授業中に「主語」「述語」「修飾語」等の言葉を意識して使っていく必要がある。

【用言の活用について】

新出漢字の学習をする際に、送り仮名に注意させることで、活用についての意識をもてるようにする。「知る」は、文中で、「知らない」「知っている」などと使われるが、この送り仮名の部分が活用語尾になるという原則を理解させるとよい。

(3) 話すこと・聞くこと

全国学力・学習状況調査	73.1
さいたま市学習状況調査	71.9

大問・領域	問 題	自校の正率	市の正率	市の無答率	設定通過率															
3 話すこと・聞くこと	保健委員の花子さんは、帰りの会で五年生の身体測定についてお知らせすることになりました。そこで、今月号の「保健だより」の「身体測定予定表」の内容に合わせてクラスの人たちに分かりやすく伝えるための原稿を書きたいと思っています。 あなたが花子さんだとしたら、どのように原稿を書きますか。次の注意にしたがって書きましょう。 【注意】 ① 文末は敬体（～です、～ます）で書きましょう。 ② 答えは解答用紙のうらに書きましょう。 ③ 実際に話すように、「保健委員会から五年生の身体測定についてお知らせをします。」に続けて、全部で六行くらいになるように書きましょう。 ④ 読み返して文章を直したいときは、二本線（＝）で消したり、行間に書き加えたりしてもかまいません。	内 容																		
		61.2	5.2	70																
	文 体																			
		82.3	5.2	70																
	保健だより 平成21年4月20日 さくら小学校保健室 大きくなったかな？ みなさん、進級おめでとうございます。 今年の身体測定は以下の予定表のとおり行います。日時などをよくたしかめてください。 <table> <tr><th colspan="3">身体測定予定表</th></tr> <tr> <th>学 年</th><th>日 時</th><th>場 所</th></tr> <tr> <td>1・2年</td><td>5月18日（月） 午後1時から</td><td>プレイホール</td></tr> <tr> <td>3・4年</td><td>4月23日（木） 午前10時から</td><td>集会室</td></tr> <tr> <td>5・6年</td><td>5月11日（月） 午後2時から</td><td>保健室</td></tr> </table> 【注意】 体育着をわすれないこと	身体測定予定表			学 年	日 時	場 所	1・2年	5月18日（月） 午後1時から	プレイホール	3・4年	4月23日（木） 午前10時から	集会室	5・6年	5月11日（月） 午後2時から	保健室				
身体測定予定表																				
学 年	日 時	場 所																		
1・2年	5月18日（月） 午後1時から	プレイホール																		
3・4年	4月23日（木） 午前10時から	集会室																		
5・6年	5月11日（月） 午後2時から	保健室																		
	【採点基準】 (1) 次の①、②に該当するものをそれぞれ、正答とする（「正答数」は2つとなる）。 ① 問題文中の「保健だより」の「身体測定予定表」の内容に合わせて原稿として書かれたもの。下記に示す解答例の傍線部を4つ全て取り上げていること。 ② 文末を敬体（～です、～ます）で統一して記述してあるもの。 解答例 保健委員会から五年生の身体測定についてお知らせをします。 五月十一日の月曜日の午後二時から、保健室で身体測定をします。 その時には、体育着をわすれずに持ってきてください。 これで保健委員会からのお知らせを終わります。 (2) 文字数の多少や、誤字・原稿用紙の使い方等は問わない。 （日付等の数字については、算用数字でも可。）																			

(単位：%)

結果の概要

①条件1（内容）について

保健委員の児童が、帰りの会で、クラスの人に5年生の身体測定について「保健だより」の内容に沿って話すための原稿を書く、という問題設定である。正答率は、61.2%と他に比べて低い。無答率も、他の問題より高く5.2%である（昨年度は4%）。

誤答の多くは、「保健だより」の中から、5年生に関係する情報を取り出して伝えるべきところを、不必要な情報（他学年に関すること）を入れていたり、必要な情報（「体育着を忘れない」という、全児童に関係すること）が不足したりしていたため、「6行程度」という条件を満たしていなかった。

②条件2（文体）について

発表原稿を書くという設定であったことと、資料の本文が敬体で書かれていたことにより、敬体表現が自然にできていたと思われる。正答率も82.3%とおおむね満足できる結果である。ただし、「【注意】体育着をわすれないこと」の表記を、そのまま書き写している事例があった。

指導のポイント

①条件1（内容）の対応・・・相手意識・目的意識をもち、情報を取捨選択するようにする。

学習指導要領の「話すこと・聞くこと」の目標では、第3・4学年においては「相手や目的に応じ」、第5・6学年においては「目的や意図に応じ」ということを重視している。

今回の問題においては、まずは話す相手が自分のクラスの5年生であることを意識する必要がある。そうすることによって、保健の先生が全児童向けに書いた「保健だより」から、自分のクラスの友だちに伝えるために必要な情報のみを取り出す思考をすることになる。「大きくなったかな？」の見出しは必要かどうか、「みなさん、進級おめでとうございます。」は必要かどうか、1・2年の予定を伝える事は必要か、というふうに、一つずつ確認するのである。

つまり、同じ資料でも相手や目的、意図によっては取り出す情報が違うということを、一人ひとりに認識させる必要がある。これらは、取材活動をする際、そして、実際に書く活動になった際に、繰り返し指導することが重要である。

また、日ごろから、条件を設定して表現する機会を繰り返し設けることが大切である。「20秒以上30秒以内で話そう」、「100字程度で書こう」等、時間制限や字数制限等をするのである。これらの条件を満たすためには、どの程度の量の情報を取り入れて話せるか、取捨選択の幅が条件によって違うことを実感させる指導が必要である。

②条件2（文体）について・・・話し言葉と書き言葉の違いを意識させる。

話し言葉と書き言葉の違いを意識させることは、いわゆる書くことの指導との大きな違いである。同級生が相手であること、帰りの会といういわば公の会であることから、この場合、敬体が話し言葉としてふさわしいということになる。「【注意】体育着をわすれないこと」という項目は、この場合必要な要素ではあるが、発表原稿にこのまま書いてしまうのは適切ではない。「体育着を忘れないようにしましょう。」等、話し言葉に書き換えなくてはならない。そのためには、書いた原稿は必ず声に出して読み、話し言葉として適切かどうかを確認させる活動をする必要がある。

日頃のスピーチ指導の際には、この書き言葉と話し言葉の違い（耳で聞きにくい言葉はさける等）に加えて、声の強弱・間の取り方等、音声面の指導も欠かせない。